



親愛なる、あなたへ

本田博太郎

根岸季衣 宮下順子

勝野雅奈恵 浜田 学 河西健司 風見章子

石橋蓮司

企画のねらい

「人権が尊重される安全・安心のまちづくり」をめざして

現在、都市化や核家族化が進行し、地域社会における人々の結びつきが弱まっています。近隣同士であっても互いに無関心、無理解でいることにより、様々な人権問題が起きています。

本来、地域の主人公はそこに暮らすすべての人々であるはずですが、しかし、実際には、自分も「まちづくり」の主人公であることをすっかり忘れて、他人任せになりがちです。

このドラマでは、一人の人間の気づきと再生を中心に描いています。一人一人の「気づき」こそが、互いに支え合う力が低下した地域の『再生』につながります。無関心、無理解という冷たい壁を破って、温かい見守りと相互支援を進めることの大切さを語りかけます。

地域に関わる全ての人々が、同じ社会の構成員として、よりよい暮らしづくりを実践する地域社会を創造していくために、このドラマを制作しました。

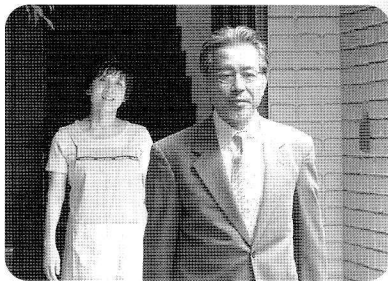


企 画／(財)兵庫県人権啓発協会
企画協力／兵庫県・兵庫県教育委員会
製 作／東映株式会社

販売価格
(消費税込み)

■ 上映時間 37分 販売価格 84,000円(本体80,000円)

DVD … 字幕副音声版 [C#6594]
ビデオ … 字幕副音声版 [C#6593]
ビデオ … 通常版 [C#6592]



小野寺弘務は、仕事一筋に生きてきた。まもなく定年退職を迎えようとしている。

妻陽子は、まちの定食屋「まちの灯」を経営する近松芳雄・春江夫妻らとともに地域のボランティアをしているが、弘務は地域のことに全く関心がない。

ところが、弘務の退職を目前にして、陽子は脳梗塞で急死してしまう。葬儀後、自分に反発心をもつ一人息子の信吾と口論し、孤立する。そして、退職を迎える。陽子がいなくなった今後を思うと、途方にくれる。



そんな時、陽子の世話になっていた長田チヨノの訪問や「まちの灯」での近松夫妻の話を通して、弘務は自分が地域での陽子の様子をほとんど知っていなかったことを痛感する。

また、チヨノの息子修二にとって、母の介護が重い負担になっていることも知る。

弘務は、「まちの灯」で、磯辺美奈代・竜親子に出会う。派手な外見の美奈代に反感を覚え、春江と子育て論を戦わす。徐々に心を開いて話したり、笑ったりしている自分に気づく。

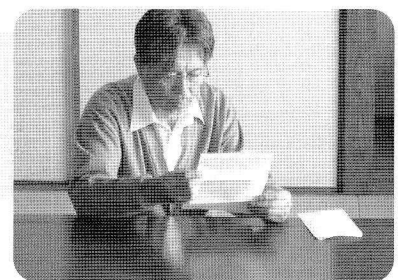
翌日、チヨノの家に行くと、老人ホームに預けられようとするチヨノを目の当たりにして、愕然とする。



竜が一人で鉄棒の逆上がりの練習をしている所に通りかかった弘務は、思わず指導を始める。そこへ、事情を知らない美奈代が現れ、弘務と言い争いになる。

数日後、再就職の誘いの電話がかかってくる。そこへ、信吾が陽子の好きだった絵の裏に隠されていた手紙を届けに来る。

弘務は、自分に対する陽子の思いが綴られた手紙を読むのだが……。



学習のねらい

- ビデオの主人公の生き方を追体験することを通して、日頃の自分自身の言動を振り返る。
- 私たちの身の回りに人権に関わる課題が数多くあることから、まず身近な人や出来事に 関心をもつことが人権尊重の第一歩であることに気づき、地域を見つめ直す契機とする。
- 一人一人が地域社会の構成員であることを自覚し、自分の能力や経験を活かすなど、主体的な生き方について考える。

○スタッフ プロデューサー／鎌田幸人 脚本／山上梨香 監督／高橋 浩

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
 関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
 広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066
 福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

北辰映像株式会社